

## 会議報告

#### 4. 連携・協力に関する事項（他機関からの要望事項）

農水省消費・安全局から出された「新規技術開発としてレギュラトリーサイエンス事業を立ち上げるので積極的な参画」、「家畜・畜産物輸出入に伴うリスク評価への協力」、「鳥インフルエンザワクチン株に関する技術的支援」、「家畜防疫体制と関係機関との連携維持」「現場で利用できる類症鑑別技術の基盤整備」「鶏カンピロバクターに関するリスク管理措置に対する技術的助言」、「薬剤耐性菌のサーベイランス・プロトコール開発に必要な統計学的、疫学的手法の技術的支援」等に関する要望事項に対し、動物衛生研究所の企画管理部長が対応方針の概要を説明し、了解されました。

#### 5. 総合討論

農研機構他の参画研究機関から、食の安全、自給率向上、畜産の振興等に向けた協力要請があり、連携を取りながら研究推進していく方向が議

論されました。

#### 6. 主要研究成果の検討、評価、採択

動物衛生研究所の各研究チーム担当の研究管理監・センター長の進行により、担当研究チーム長が29課題ならびに鳥根県担当者から1課題の合計30課題の主要研究成果候補課題の概要を報告し、質疑と評価が行われました。30課題全てを採択し、総括推進会議に提案することになりました。

外部委員から動物衛生分野の研究推進について述べられた意見は次の通りです。①動物衛生研究はBSEやO157発生以来、畜産振興から安全性研究へシフトしている。健康な家畜の生産、人獣共通感染症対策など、現状の推進方向はそれに沿っている。引き続き、生産現場や消費者の動向を把握し、ニーズに応える研究展開が必要である。②動物衛生研究は、現場を大事にしながらも、他研究所と連携を取りながら技術的なリーダーシップを今後とも発揮してほしい。

## TOPICS

### 第9回TXテクノロジー・ショーケース in つくば 2010 への出展

(財)茨城県科学技術振興財団つくばサイエンス・アカデミー主催「第9回TXテクノロジー・ショーケースinつくば2010～『つくば研究祭』&『高校生科学研究発表会』」が、平成22年1月22日（金）、23日（土）の2日間、筑波大学大会館にて開催されました。今年は、「3E（環境、エネ

ギー、経済）実現のための科学技術と人材育成」をメインテーマとし、「首都圏広域の科学技術産直フリーマーケット」がコンセプトでした。動物衛生研究所からは、人獣感染症研究チームの辻尚利主任研究員が「マダニが教えてくれる感染症制御の手がかり：マダニの吸血・病原体伝搬調節物質」

を、次世代製剤開発チームの彦野弘一主任研究員が「センダイウイルスベクターをもちいた高病原性鳥インフルエンザワクチン」をテーマにした出展をし、活発な研究情報交換と交流を行いました。

（情報広報課）

